

記事内容

- ☆宮本会長年頭所感
- ☆2011年度1月～6月の主な行動日程
- ☆2011年度常設専門委員会の担当役員
- ☆青年委員会定期総会 / 女性委員会定期総会
- ☆女性委員会結成20年記念講演・記念パーティー / 埼玉シニア連合定期総会
- ☆ユニオン連合埼玉定期大会 / 服部光朗さん「旭日中綬章を受章」
- ☆彩のかがやき / もうすぐ選挙 / 1月の行動日程
- ☆あけぼのビル

～宮本会長 年頭所感～

課題山積みだが 力を合わせて乗り切ろう!

新年あけましておめでとうございます。新しい年が組合員とご家族にとって健康で幸多い一年となりますようお祈り申し上げます。

さて、日本経済は、2008年のリーマンショックによる世界同時不況による大きな落ち込みから徐々に回復してきていましたが、ここに来てエコカー補助金やエコポイントが見直され急激に需要が減少し、景気は足踏み状態となっています。また、円高の進行や長期化、海外経済の減速懸念など先行き不透明感が強まっており、国内物価の下落が続くなど依然としてデフレ経済下にあります。そうした中、労働者の雇用・生活は一段と厳しさを増しており、生活防衛を余儀なくされています。失業率が5%超と高止まりをつづけており、特に新卒・若年者の雇用の状況は厳しく、今春の新卒採用も過去最悪になることが懸念されています。配分のバランスも崩れ、所得格差の二極化が進行しており、セーフティネットも十分に機能していません。今の日本にとって経済対策・雇用対策は待ったなしの状況となっています。

こうした状況の中、昨年7月に施行された第22回参議院議員選挙は、民主党政権をより安定させるためには絶対に負けれない選挙でした。しかし政権運営において民主党は、政治とカネの問題、普天間基地移転問題等で鳩山政権は迷走し求心力が低下しました。その後、菅政権へ移行しましたが、当初の大きい期待もつかの間、消費税などの迷走で短期間で期待が失望に変わり、民主党の支持率は大きく低下しました。そして政権交代後初めての参議院議員選挙で大敗し、国民の厳しい審判が下される結果となりました。さらにその後の菅政権は、ねじれ国会のもと、「政治とカネ」「尖閣

諸島・北方領土等の外交問題」「TPPによる内部政局」「企業献金問題」「閣僚軽率発言問題」などで混迷を広げ、支持率をさらに下げ続ける状況になっています。このままでは政権は持ちません。民主党は政権交代時の国民の期待を思い起こし、党内が一致団結したうえで、日本の現状をきちっと国民に知らせ、民主党政権が進む方向を明示しなければなりません。これは野党として同じです。与野党で熟議をしてこの難局と乗り切りたいと思います。

さて、2011年度は下記の4項目を重要課題として取り組んでいきたいと思っています。

一点目は雇用対策です。言うまでもなく雇用対策は私たちの最重要課題です。長期デフレ不況による雇用と生活の不安を一刻も早く克服することが、全ての勤労者の最重点課



連合埼玉 宮本重雄会長

題です。労働は人間の尊厳に関わる問題であり、「雇用の安定なくして真の社会発展がない」ことは言うまでもありません。このような状況を放置すれば日本の将来は危ういものになります。連合埼玉は、雇用の安定と安心して働くことのできる環境づくりを進めるため、埼玉県内の雇用改善に向けた取り組みを強化していきたいと思ひます。また今春季生活闘争では、「すべての労働者の処遇改善」に向け2年目の闘いと位置付け、より社会性を追求した運動を展開します。デフレからの脱却を図り、労働者への配分の歪みを是正し、個人消費の喚起につなげるなど、経済の活性化を図って行きたいと思ひます。その為にもすべての労働者のために1%を目安に適正な配分を求め、労働条件の復元・格差是正に向けた取り組みを展開します。また、社会的キャンペーンなどの展開によって、非正規労働者の取り組みや配分追求の重要性について、広く社会へ波及させたいと思ひています。

二点目は、地域協議会の強化と地域事務所の設置です。昨年12月には、具体的協議会を進めてきましたが「川口地域協議会」と「戸田・蕨地域協議会」の総会において合併に向けた移行の方向性が確認され、本年1月には結成総会が行われます。また、北部地域事務所の設置に取り組む予定です。

三点目は、今春施行予定の第17回統一地方選挙への対応です。この選挙は、「国民の生活が第一」の政策を実現しようとする民主党の政権基盤を強化させ、まさに埼玉県の未来を決める重要な戦いであると言えます。私たち連合埼玉は、すべての労働者が大切にされる「希望と安心の社会」を地域から実現していくためにも、連合埼玉推薦候補者全員の当選をめざし、組織の全総力を結集した戦いを進めて参ります。改めて各構成組織、全地域協議会の協力と連携をお願いいたします。

四点目は、人材育成についてです。今期から「労組役員教育プログラム」の策定に着手していきたいと考えています。また人材交流による人材育成も進めて参ります。福沢諭吉は「他人と積極的に交際し、知見を広めて、この社会全体を良くしていこうではないか」と著書「学問のすすめ」で訴えました。人材交流によって時代情勢を的確に見極め、今なすべきことを客観的に判断する力をつけなければならないと考えています。

私たちを取り巻く環境は、課題山積みですが、みんなで力を合わせてこの一年を乗り切って行こうではありませんか。

2011年度 1月～6月の主な行動日程

1月
January

7日 新春のつどい
22,23日 雪かたしボランティア
25日 地協議長・事務局長会議
29日 パワーアップセミナー

2月
February

6日 パワーアップセミナー
15日 春闘開始宣言
16～22日 春闘“地協第一次行動”
・春闘・世論喚起行動

3月
March

8日 春闘“第二次行動”
7～11日 春闘“地協第二次行動”
22～25日 春闘“県要請行動”
24～30日 春闘“地協第四次行動”

4月
April

3月28日～4月1日 春闘“第三次行動”
29日 第82回県中央メーデー
22日～5月1日 地協メーデー開催ゾーン
・第1回STEP UPセミナー

5月
May

12日 拡大執行委員会
26日 政策フォーラム

・国会見学会

6月
June

23～25日 平和行動in沖縄
・メンタルヘルスセミナー
・男女平等月間
・男女平等参画推進セミナー



2011年度「常設専門委員会の担当役員」



◎＝正 ○＝副

委員会	取り組み内容	委員	事務局
広報委員会 委員長 浪江副会長 (自治労)	・情報誌の発行 ・連合埼玉HPの充実	関口 執行委員 (JP労組)	◎ 山本 副事務局長
		田口 執行委員 (情報労連)	○ 鶴谷 副事務局長
		西野 執行委員 (フード連合)	
		吉田 執行委員 (埼玉教組)	
		茂木 執行委員 (全水道)	
		荻野 執行委員 (建設埼玉)	
		大室 執行委員 (JR総連)	
		田尻 特別執行委員	※ 専従
組織委員会 委員長 金井副会長 (電機連合)	・「なんでも相談ダイヤル」の充実 ・組織拡大 ・地域社会と連携した地域協議会活動	高木 執行委員 (UIゼンセン同盟)	◎ 鶴谷 副事務局長
		平尾 執行委員 (電機連合)	○ 木村 副事務局長
		鈴木正男 執行委員 (JAM埼玉)	
		加藤 執行委員 (自治労)	
		横田 執行委員 (県私鉄)	
		安田 執行委員 (JEC連合)	
		西野 執行委員 (フード連合)	
		鈴木昭二 執行委員 (運輸労連)	
労働政策委員会 委員長 松井副会長 (UIゼンセン同盟)	・安全衛生 ・地域ミニマム運動 ・春季生活闘争 ・雇用対策 ・ワーク・ライフ・バランス	鈴木満 執行委員 (自動車総連)	◎ 山本 副事務局長
		平尾 執行委員 (電機連合)	○ 小穴 副事務局長
		関口 執行委員 (JP労組)	
		山本 執行委員 (電力総連)	
		横田 執行委員 (県私鉄)	
		安田 執行委員 (JEC連合)	
		矢作 執行委員 (埼交連)	
		茂木 執行委員 (全水道)	
政策・制度委員会 委員長 関口副会長 (自動車総連)	・政策フォーラム ・政策制度要請	鈴木正男 執行委員 (JAM埼玉)	
		加藤 執行委員 (自治労)	◎ 小穴 副事務局長
		山本 執行委員 (電力総連)	山本 副事務局長
		田口 執行委員 (情報労連)	鶴谷 副事務局長
		矢作 執行委員 (埼交連)	木村 副事務局長
		鈴木昭二 執行委員 (運輸労連)	
		天沼 執行委員 (基幹労連)	
		吉田 執行委員 (埼玉教組)	
男女平等参画推進委員会 委員長 内田副会長 (JP労組)	・男女平等参画社会形成に向けた環境の整備・充実 ・「第3次男女平等参画推進行動計画」の実行 ・ワーク・ライフ・バランスの推進	荻野 執行委員 (建設埼玉)	
		田尻 特別執行委員	※ 専従
		高木 執行委員 (UIゼンセン同盟)	◎ 鶴谷 副事務局長
		宮崎 執行委員 (サービス・流通)	○ 木村 副事務局長
		小川 執行委員 (印刷労連)	
		中島 執行委員 (JR総連)	
		高橋 執行委員 (国公総連)	
		横山 執行委員 (自治労)	
総務・財政委員会 委員長 中沢副会長 (情報労連)	・大会、地方委員会、執行委員会の運営 ・財政管理	田尻 特別執行委員	※ 専従
		上杉 特別執行委員 (電機連合)	
		鈴木満 執行委員 (自動車総連)	◎ 佐藤 事務局長
		宮崎 執行委員 (サービス・流通)	○ 小穴 副事務局長
		中島 執行委員 (JR総連)	
		天沼 執行委員 (基幹労連)	
		高橋 執行委員 (国公総連)	

青年活動の活性化で明るい未来をつくろう!

青年委員会第22回定期総会開催

11月26日(金)「さいたま共済会館」において「青年委員会第22回定期総会」が開催され、2010年度活動・会計報告、2011年度役員・活動方針・予算の全議事が満場一致で承認された。

冒頭、大室委員長より「長年の悲願であった政権交代が実現したが、民主党を中心とした政権は、多くの問題に直面している。一定の基盤はできたが、更に強くするために、声を挙げ続けなければならない。来春には第17回統一地方選挙が予定されており、われわれ青年層も政治に強く関心をもち、連合埼玉推薦候補者全員の当選に向けて、積極的に参画し、明るい未来を、つくりだしていきましょう!」と挨拶がされた。

連合埼玉を代表して宮本会長は「連合として次世代の労働運動を担う青年層への期待と合わせて、是非、本を読んで勉強してほしい」と、参考文献『1日30分を続けなさい! 古市幸雄(著)』を紹介し激励した。

また、終了後には交流懇親会を開催し、日ごろ交流のない構成組織青年層がいろいろな話題で盛り上がり無事に終了した。



挨拶をする大室委員長



2011年度新役員

■2011年度新役員体制

役 職	氏 名	構成組織名
委員長	大室 元信	JR総連
副委員長	奥山 義彦	JAM埼玉
	酒寄 友宏	情報労連
事務局長	梶原 健太	電機連合
事務局次長	小林 孝徳	UIゼンセン同盟
幹事	田島 佳昭	自動車総連
	渋谷 大輔	サービス・流通連合
	椎名 邦充	自治労
	楮本 信明	電力総連
	甘浦 大	運輸労連
	熊木 将剛	JR総連
	鈴木 正治	化学総連
	久森 政弘	全国ガス
	酒井 章貴	建設埼玉

■退任役員

役 職	氏 名	構成組織名
副委員長	五十嵐 晃	情報労連
事務局長	赤座 孝之	自動車総連
幹事	清水 泰	電機連合
	鈴木春日人	サービス・流通連合
	関 祐太	JP労組
	齋藤 毅	国公総連
	新井 正	化学総連
	矢口 樹	全国ガス

「いきいきと働き続けることのできる社会」の実現を!

～連合埼玉女性委員会第22回定期総会開催～

12月2日(木)さいたま共済会館において、女性委員会「第22回定期総会」並びに「結成20年記念講演・記念パーティー」を開催した。

総会の冒頭、女性委員会を代表し上杉副委員長より「女性委員会が結成された1990年、当時の女性たちは結婚し子どもを産んでも、働き続けるための制度は十分ではなく産前産後休暇が終るとすぐに職場復帰し『仕事・育児・家庭』と、必死で働いた。1994年4月育児休業法が施行され、1999年6月には男女共同参画社会基本法が制定された。法整備は進んだが女性の参画は進まず課題は山積している。女性たちが『いきいきと働き続けることのできる社会』の実現に向け、力を合わせ活動を進めていく!』との力強い挨拶がされた。

続いて連合埼玉を代表し佐藤事務局長より「社会不安が高まっている今こそ、働く者の知恵と総力で『労働を中心とする福祉型社会』の実現に向け全力で取り組んで行こう」と激励の挨拶がされた。

2010年の活動報告と決算報告の確認をした後、2011年度の活動方針である3つの重点課題①男女平等社会の実現、②仕事と生活の調和、③あらゆる分野への女性の参画、を中心に具体的な取り組みを確認し、自らの情熱と挑戦により、女性たちが「いきいきと働き続けることのできる社会」の実現に向け活動していく主旨の総会アピールを採択した。



総会の様子



参加者集合写真

■2011年度新役員体制

役 職	氏 名	構成組織名
委員長	横山 薫	自治労
副委員長	吉川 和美	JAM埼玉
	成田 良子	サービス・流通連合
事務局長	上杉 裕子	電機連合
事務局次長	井上 尚子	情報労連
幹事	佐藤 千恵	自動車総連
	伏見美千代	UIゼンセン同盟
	松浦 沙織	JP労組
	田中 保世	電力総連
	朝海 登紀	埼玉教組
	神田 弥生	建設埼玉

■退任役員

役 職	氏 名	構成組織名
事務局長	田尻 富子	連合埼玉
幹事	齋藤 貴子	自動車総連
	高橋 智恵	JP労組
	齋藤 尚子	電力総連
	田村 幸子	情報労連
	伊藤亜希子	国公総連
	是木あゆみ	労供労連

男女が認め合い支えあう社会の実現をめざして!

～連合埼玉女性委員会結成20年記念講演・記念パーティーを開催～

12月2日(木)さいたま共済会館において、女性委員会「第22回定期総会」終了後に、「結成20年記念講演・記念パーティー」を開催した。

結成20年記念講演では、独立行政法人国立女性会館理事長 神田道子氏を講師にお招きし、「連携し・しなやかに生きる」～地域・職場の社会活動キャリアの形成～についての講演をいただいた。講演は、男女共同参画社会のはじまりや、必要性をひも解いた。さらに、新しい視点で捉えた、社会と関わる生き方の集積である「社会活動キャリア」についての話がされた。社会活動キャリアを進めていくのに最も重要なのは、協働できる「関係資産」を持つこと、そして、いまの私たちが社会活動キャリアを生きて、自分の問題だけではなく社会的に共通の問題を解決することこそが、次の世代につながっていくという新しい発想の視点を学び、結成20年に相応しい記念講演となった。

記念パーティーの式典では、主催者を代表し女性委員会成田副委

員長が出席できない横山委員長の思いを盛り込んだ挨拶文を代読した。続いて連合埼玉を代表し宮本会長より結成20年に向けたお祝いのお祝いの挨拶がされた。来賓としてお招きした吉沢埼玉県労協理事長代行のご発声で乾杯を行いその後、ご出席いただいた来賓よりそれぞれの立場でひとことずつの自己紹介等を含めたお祝いの言葉をいただくとともに、祝電の紹介を行った。歓談の際には、琴と三味線によるミニコンサートを楽しんでいただき、和やかな雰囲気の中で成功裏に記念パーティーを終了した。



記念講演を行う神田道子氏



主催者を代表し挨拶する成田副委員長



記念パーティーの様子



琴(松元氏)と三味線(小山氏)によるミニコンサート

“組織強化・拡大などの諸活動方針可決される!”

◇埼玉シニア連合第14回定期総会開催◇

11月25日(木)さいたま市・あけぼのビルで第14回定期総会が開催された。

はじめに生方会長から「11月23日の北朝鮮の攻撃によって緊迫した状況にあるが、戦争をしてはならない、平和を求めて行きたい。後期高齢者の医療、年金、介護問題解決に向け、10月に国会へ行き、埼玉県出身の国会議員に要請行動を行った。」との挨拶があり、その後、連合埼玉・宮本会長をはじめとする来賓の挨拶を受けた。

続いて2010年度活動経過報告および会計報告・会計監査報告が提案され、満場一致で承認された。

引き続き議事に入り、第1～6号議案までがそれぞれ提案された。活動方針では、①組織強化と拡大に向けた活動、②退職者連合と連携した取り組み、③連合埼玉方針に沿った2011年統一地方選挙への取り組み、④会員相互の親睦を深める交流行事の開催、などの諸活動が提起され、満場一致で可決・承認された。

最後に、退任された松本副会長から挨拶を受けた後に、新役員の自己紹介と生方会長の代表挨拶があり総会は終了した。



挨拶をする生方会長



埼玉シニア連合新役員

■2011年度新役員体制

役 職	氏 名	出身組織
会 長	生 方 文 人	電機連合
副 会 長	中 村 正 男	UIゼンセン同盟
	澤 井 敏 夫	JP労組
	村 田 明	自動車総連
事務局長	駒 込 登	JAM埼玉
事務局次長	小穴真一郎	連合埼玉副事務局長
幹 事	飯塚 貴	電力総連
	岡 芹 敏 男	自治労
	三 角 寛	JR総連
	永 野 直 次	運輸労連
	松 川 正 登	国公総連
	竹 澤 一 枝	情報労連
	小 林 真 一	基幹労連
会計監査	長 峰 友 作	私鉄総連
	植 田 千 芳	全水道

■退任役員

役 職	氏 名	出身組織
副 会 長	松 本 高	自動車総連

～魅力ある組織作りをめざして～

ユニオン連合埼玉第9回定期大会

11月28日(日)午後3時より、さいたま市・あけぼのビルにおいて、ユニオン連合第9回定期大会が開催された。

諏訪副委員長の開会挨拶に続き、大会議長に宮澤副委員長を選出した。

連合埼玉を代表して、鶴谷副事務局長より「1949年の55.8%を頭打ちに以降、毎年低下してきている現状の中、2009年度には34年ぶりに前年比0.4%上回り、若干ではあるが明るい希望が見えてきたことなど、組織化の重要性と来春施行されます第17回統一地方選挙における全推薦候補の必勝に向けご協力をお願いする」との挨拶をいただいた。

運動方針では、木村委員長より「魅力ある組織作りのために、個人加盟の組合員が問題解決後も継続してユニオン連合埼玉の一員として活動に参画し得る環境づくりに努めたい。また、団体加盟の産別移行のために加盟組織と産別との連携強化に努めていく」等の活動方針を満場一致で承認・可決した。

また、今大会において役員体制の変更が行われ、鶴谷新委員長ならびに木村・清水副委員長、平尾会計監査が新たに選出された。

引き続き行われた躍進パーティでは、個人加盟の塚原英夫さんがマジックショーを披露するなど和気あいあいの中、最後は鶴谷新委員長の団結ガンバロー三唱で終了した。

■2011年度新役員体制

役 職	氏 名	所 属 名
執行委員長	鶴谷 一仁	連合埼玉・副事務局長
副執行委員長	木村 俊之	〃
	鈴木 昭男	首都圏トールサービス西東京浦和労組
	宮沢正之助	ユニオン連合埼玉
	諏訪 稔	〃
	吉川 作治	〃
	林 久詔	〃
書記長	安井 俊則	〃
	相場 克己	〃
執行委員	松本 智	本庄ひまわり労組
	高木 英見	連合埼玉・組織委員会委員
	鈴木 正男	〃
	横田 行英	〃
	西野 雅也	〃
	加藤 幸一	〃
	安田 英正	〃
	鈴木 昭二	〃
会計監査	小川 義寛	〃
	平尾 幹雄	〃
	藤根 実	個人加盟

■退任役員

役 職	氏 名	所 属 名
副執行委員長	河西 伸広	連合埼玉・副事務局長
会計監査	白鳥 優	連合埼玉・組織委員会委員



鶴谷新執行委員長



定期大会の様子

連合埼玉初代会長“服部光朗さん”旭日中綬章を受章

12月1日(水)に、さいたま市の「パレスホテル」において連合埼玉初代会長である服部光朗さんが、平成22年秋の叙勲で旭日中綬章を受章をうけて「受章を祝う会」が開催されました。

服部さんは、連合埼玉の結成にご尽力され、連合埼玉の初代会長を、平成元年(1989年)～平成5年(1993年)まで2期4年間務められました。あらためて受章のお祝いを申し上げます。

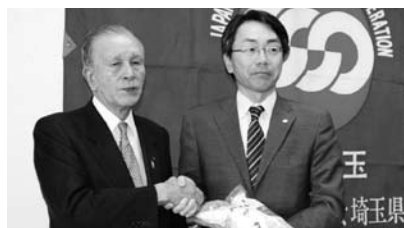


服部光朗さん

埼玉生まれのブランド米「彩のかがやき」購入協力をお願い

埼玉県のブランド米「彩のかがやき」が、2010年の記録的猛暑の影響で、収穫量の90%以上が規格外となり甚大な被害が発生しました。(白い部分がありますが、味に遜色はありません) 連合埼玉では売れないお米を抱える農家の支援のため、「彩のかがやき」米の購入協力をしていくことにしました。

購入にむけた手続きについては、各構成組織で展開中です。



JA江原会長(写真左)より要請を受けた
連合埼玉宮本会長(写真右)

「彩のかがやき」とは？

- ・平成14年に埼玉県が育成したお米の品種
- ・病気と害虫に強く、味もいいことが特徴
- ・県内ではコシヒカリに次ぐ第2位の作付面積(1万ヘクタール・全体の約3割)

○お盆過ぎの穂が出てお米になるまでの期間に記録的な高温が続いたことから
白く濁った米粒が大量に発生



= も う す ぐ 選 挙 =

横瀬町長選挙

◆加藤 嘉郎(かとう よしろう) 64才(無所属・現3・連合埼玉推薦初)

告示日:2011年1月11日(火) 投票日:2011年1月16日(日)

現在予定される1月の日程表です

1月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	土		
2日	日		
3日	月		
4日	火		
5日	水		連合2011新年交歓会(16:00～・ホテルラングウッド)
6日	木		①2011連合白書勉強会(13:30～・総評会館) ②埼玉新聞社2011新年賀詞交換会(17:00～・浦和ロイヤルバインズホテル) ③自治労埼玉県本部旗開き(18:00～・さいたま共済会館)
7日	金	①第2回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館) ②新春のつどい(16:00～・ときわ会館)	全水道埼玉県本部2011年新春旗開き(18:30～・浦和ロイヤルバインズホテル)
8日	土		①北埼玉地域協議会「第17回地協委員会」(9:30～・行田市商工センター) ①川越・西入間地域協議会「第2回地協委員会」(14:00～・東武バケットホール上尾) ②埼玉教組2011年新春旗開き(18:30～・さいたま共済会館)
9日	日		
10日	月		
11日	火		①情報労連埼玉県協議会(11:00～・ときわ会館) ②横瀬町長選告示
12日	水		①埼玉県経営者協会「平成23年新年会員懇談会」(13:30～・パレスホテル大宮) ②建設埼玉「2011年新春の集い」(14:00～・ラフレさいたま)
13日	木		①埼玉労福協第6回企画委員会(10:00～・ときわ会館) ②電機連合埼玉地協「2011年新春旗開き」(18:30～・伊香保温泉「ホテル木暮」)
14日	金		①連合関東アマガミ連絡会幹事会(10:00～・総評会館) ②第6回地方連合会事務局長会議(13:30～・総評会館) ③JP埼玉旗開き(17:00～・ときわ会館) ④東部地協「2011年新春の集い」川口・戸田・蕨地協結成総会(18:00～・川口フレンチア)
15日	土		ろうきんふれあいコンサート(13:30～・さいたま市民会館)
16日	日		横瀬町長選投票
17日	月		①秩父地域協議会「第8回地協委員会・2011新春の集い」(18:00～・秩父宮記念市民会館) ②民主党埼玉県連「2011年新春の集い」(18:00～・浦和ロイヤルバインズホテル) 埼玉県生産性本部「創立50周年記念式典」(13:30～・大宮ソニックシティ)
18日	火		
19日	水		
20日	木		中央労金埼玉第5回運営委員会(10:00～)
21日	金	第1回男女平等委員会(16:00～・あけぼの501)	さいたま市地協総会(18:15～・ときわ会館)
22日	土	①ネット21「インターンシップ事前説明会」(あけぼの502) ②災害ボランティア「雪かたし」(～23日・福島県)	
23日	日		
24日	月	青年委員会新旧幹事会(13:30～・連合埼玉会議室)	
25日	火	第1回地協議長・事務局長会議(14:00～・あけぼのビル501)	埼玉労福協第58回理事会(10:00～・ときわ会館)
26日	水		全労済埼玉経営者委員会(15:00～)
27日	木		①第1回最低賃金全国担当者会議(14:00～・中央大学駿河台記念館) ②県央地協総会(18:30～・東武バケットホール上尾) ③JAM埼玉旗開き(17:30～・大宮ソニック市民ホール)
28日	金		関東ブロック2011女性会議(13:00～ 1/29 12:00・ラフォーレ那須)
29日	土	春闘パワーアップセミナー(10:00～・あけぼの501)	
30日	日		運輸労連旗開き(18:30～・鬼怒川)
31日	月		①埼玉県地方産業教育審議会(13:30～・さいたま市民会館おみや) ②JR総連「2011年旗開き」(18:30～・大宮「東天紅」)

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇自民党政治からの脱却、そして改革へ

我が国が歩んできた自民党長期政権は、日本の民主主義の危機をもたらしただけでなく、政治を極度に矮小化し、国の将来を左右するような重要テーマが政策論の観点から徹底的な議論がされず、正しい意思決定が行われる状況になかったことが、さらに深刻な問題である。国会は政党の力量の低さと官僚依存、明治以来の硬直的議会運営から、立法府本来の機能を著しく衰退させてしまった。その中で、与野党を問わず党利・党略を最優先させ、生活者としての国民の率直なニーズを汲み上げ、それを全力で実現させる姿勢に欠けていた。また、いわゆる国対政治は国民と政治の距離を広げてしまい、政策の決定を政党の駆け引きと妥協の産物としか思えないものへとしてしまった。特に、自民党が長期にわたって政権党にあったことは、政治上の多くの問題の根源的な原因となってきた。産業界、中小商工業者、農業者を主な支持基盤としてきた自民党は、戦後一貫して産業・事業者優先の政治路線を推進してきた。その結果、政治・行政のすみずみまで産業・事業者利益偏重の体質が浸透し、勤労者・生活者の声が政治に届かない構造がつくり出されてしまった。さらに、長期の政権独占は、政・官・財の癒着を構造的なものとし、政治腐敗と利益誘導型政治への堕落を必然的なものとした。

一方、自民党の政策に対する明確なビジョンを提示できず、国民の信頼獲得と支持基盤拡大を果たせなかった野党にも、自民党長期政権をもたらした大きな責任がある。このような政治状況の中で、93年6月の衆議院総選挙の結果、自民党一党支配に終止符が打たれたが、日本政治の改革は一向に進まなかった。しかし09年8月の衆議院総選挙で私たちが待ち望んだ勤労者・生活者のための政治が民主党連立政権誕生によって大きく前進したのである。しかし、日本社会のこれまでの政治・経済・社会システムを抜本的に変えることは容易なことではない。それは、現在のシステムで様々な恩恵を受けている人がいるからだけでなく、一度できあがってしまったシステムは簡単には改革できないという諦めにも似た気持ちがあるからではないか。しかし現在の日本社会

は、多くの点で改革を必要としている。現在の生活レベルが今後も保証されているわけではない。既存の日本のシステムでは対応できないひずみがすでに表面化しており、それをそのまま放置すれば、将来の一人ひとりの生活に直接影響する問題が急速に進行している。私たちは民主党への期待と批判だけでなく、何をすべきであろうか。

◇求めるだけでなく担い手として

労使交渉を通じての賃金・労働条件の向上だけでは勤労者生活の改善は十分に果たすことはできず、また豊かでゆとりある公正な社会をつくるためにも、人間・生活重視の視点に立った政策・制度の改善が必要であるということが、労働戦線統一、連合結成の大きな動機であり目的であった。今、労働組合に求められていることは、まずは、働くことの尊厳を守ることである。第一義的な生活保障としての賃金・労働時間などの適正な労働条件の確保とそれらの水準を社会的な労働標準として確立していくこと、いわば波及力ある社会的相場を形成していくことは労働運動の基本的な任務である。ワークルールの設定、最低賃金の決定、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みはもちろんのこと、労働委員会や労働審判制度を活用して、労働紛争を解決することや、紛争を未然に防止する機能を発揮することも、労働組合および労働運動に課された本来の責務である。労働運動はまた、働く人たちのための政策決定を担う存在として、政策立案、政策実現に対する発言力を高め、社会的対話を進め、国民的な合意形成に積極的にかかわってきた。こうした労働運動の役割は、「働くことを軸とする安心社会」を実現していく上で極めて重要である。

労働運動は、新しい社会ビジョンを示して、その実現を求めるだけでなく、その実際の担い手でもある。これまでも日本の労働組合は、働く人々の賃金と労働条件を守り、向上させるために奮闘してきた。しかし、働く者が連帯し結びつくその枠は、企業の内部、男性正社員、あるいは組合員に限られる傾向があったことは否めない。しかし今や、自分たちの利益を自分たちだけで守ろうとしても、そのものの利益さえ守ることはできない時代になっている。

私たちは「連合評価委員会最終報告」によって提起された、「社会の不条理に立ち向かう」「すべての働く者が結集できる」労働運動を今一度肝に銘じ、働くすべての人たちを対象として、その実現に向けた取り組みを強化しなければならない。